

日土の風景



「あそこのおばちゃん今日は乗らんが、どうしたがるか」と高齢者に目配りができるのも、地域で運営する住民バスだからです。私たちの住む日土地区は、八幡浜市の北部に位置し、四国霊場別格本山金山山出石寺

「今日は、病院に行くけん頼まい」、「みんなで買い物行くけん」と、田舎の狭い道、新緑がきれいなみかん畑を今日も安全運転で山を下る、NPO法人にこここ日土のバス。

「このバスがなければ病院に行けんがよ」、「帰りに買い物して来るけん」とそこには、ドライパーと乗り合わせた人たちの楽しい会話があります。

（標高812m）を源とする喜木川支流野地川・出石川沿いに23の集落があり、多くの人家が谷筋に点在していて、生産条件の不利益な柑橘を主作物とする第二次産業中心の山間・中山間地です。

市中心部へ車で30分以上かかる集落が大半で、約700世帯2,000人が生活しています。

近年、全国各地で過疎化・高齢化による集落破壊・限界集落が深刻な問題となっていますが、当地区においても例外でなく高齢化率は、34%と高齢化が進み、すでに限界集落になった地域もあり、10年後には50%に到達するのでは、と心配している現状です。

その高齢者住民が通院、買い物等バスを利用するためには川沿いの県道にある最寄りのバス停まで急な坂道を歩かねばならず、日常きわめて不便をきたし、病院・買い物等へ行きたくても多くの高齢者が我慢しているのが実態でした。

平成19年9月1日に日土振興協議会の組織で準備委員会を立ち上げ、まず、過疎地有償運送事業の理解、そしてこの事業をすすめるためには特定非営利活動法人（NPO法人）設立の必要性の説明等を行いました。計画からわずかな期間の平成20年1月4

立ち上がった地域住民

そんな中、拍車をかける事態が起きました。当地区において路線バスの一部路線の廃止及び減便がなされたのです。

多くの住民が影響を受け、特に一部小中学校の児童・生徒のバス通学が困難となり、地域住民の不安を招く結果となりました。さらに、交通空白区の拡大でバスの利用が不可能になった高齢者の多くは国民年金生活者で、タクシーの利用には市内往復4,000円以上かかり、経済的負担が大きく、月に数回の外出に不自由をきたしている現状となったのです。

特集5

理想の公共交通で豊かなくまじづくり



NPO法人 こここ日土
理事長
二宮 嘉彦



地域づくりに取り組む NPO法人

日にNPO法人設立総会を開催し、同年6月に事業を開始しました。

我々は、住民総意により、高齢者住民が気軽に利用可能な交通システムを構築し、家庭に閉じこもりがちな高齢者が主体的にいきいきと生活できることを目指し、『地域の問題は地域の力で』と過疎地有償運送事業を始めました。

地域が運営することにより、なお一層、地区ならではのサービスが可能となり地理的にバスの利用ができなかった人たち、特に高齢者が気軽に利用可能となるこの事業こそ田舎の理想の公共交通で、豊かな住みよい地域づくりによる福祉向上ができるのです。

過疎地有償運送事業とは

平成18年10月1日に改正された道路運送法は、地域住民の生活に必要な旅客運送を確保するため、一般旅客自動車運送事業者によることが困難であり、地域関係者が必要であると合意した場合には、一定の要件を満たした市町村や特定非営利活動法人等による家用自動車を使用した有償旅客運送が可能とされました。



活動内容

ここにこ日土は、行政はもちろん八幡浜市が主宰する運営協議会のみなさまのご理解を得て、事業開始から4年を迎える事ができました。

運行予定を決め、すべての集落へ乗り入れをする定期運行、必要に応じて日土町内のみ自由運行のデマンド運行、そして、高齢者対象の外出支援等を行っています。また、高齢者運転免許返納制度への支援にも取り組んでいます。

今後の展望

平成21年8月には約50年にわたり、日土地区民の移動手段として貢献された伊予鉄道・伊予鉄南予バスが完全廃止となりました。

一方、ここにこ日土の利用状況は、現在390世帯の会員、月間利用者も延べ1,000人に達成しました。

地域を助けようとはじめたこの事業、今では地域の人たちに助けられ「がんばってな！」とNPO法人にカンパを寄せるお年寄りもいます。

すっかり地域の公共交通となった『ここにこ日土』は、地域に支えられながら、より良い交通システムとなるように頑張っていくつもりです。



高齢者免許返納
キャンペーン

